



～大泉地域の昔なつかしい風景を再現～ 「橋戸田んぼ」で小学生が田植えを体験！

と き 6月13日(月)・6月15日(水)

と ころ 練馬区立大泉橋戸公園(練馬区大泉町2-9-34)

13日(月)および15日(水)、区立大泉橋戸公園(大泉町2丁目)内の水田で、周辺の小学校3校(大泉第一小学校、大泉北小学校、橋戸小学校)の5年生142人が田植えを体験した。

水田は、周辺の小学校や地域団体から、地域の風景を復元したいという強い要望を受けて区が整備したもの。「橋戸田んぼ」として親しまれている。

管理運営は、地域の橋戸水田自主管理会(会長:篠崎利光)が主体となっており、平成24年の開園以来、周辺の小学校3校の児童が稲作を体験している。令和2・3年度は感染症拡大防止のため、田植え体験と稲刈り体験は中止しており、今年3年ぶりの実施となった。

田植えした稲は、管理会によって育てられ、秋には児童が稲刈り体験も行い、収穫したお米を味わう予定。



▲当日の様子

【当日の様子】

児童は靴下で田んぼに入り、苗が一行に並ぶよう目印に沿って植えていった。管理会の方から「苗は、ぎゅっと力を入れてまっすぐ植えてね」などとアドバイスを受けながら、児童は慣れない泥の中での作業に奮闘した。

泥に足を踏み入れた子どもたちは、「冷たい」「足が抜けない」と初めての体験に戸惑っていたが、田んぼから上がる頃には「楽しい、もう1回植えたい」と目を輝かせ、2回3回と挑戦する児童も見られた。また、「お米を作ることの大変さがわかった」という声も聞かれた。

同会会長の篠崎利光さんは、「3年ぶりに、にぎやかな声が聞けて良かった。子どもたちも楽しそうに植えていた」と話し、児童が田植えをする様子を嬉しそうに眺めていた。

※各校の参加人数(13日:大泉北小学校77人・大泉第一小学校35人、15日:橋戸小学校30人)

【橋戸田んぼについて】

区立大泉橋戸公園の「田んぼ」は、園内に残る弁天池の湧水を活用し、かつて白子川流域で営まれていた水田を復元整備したもの。水田面積は230㎡で、6枚の田んぼに分かれている。

【橋戸水田自主管理会とは】

平成24年に結成された組織で、大泉町近隣の3校(大泉第一小学校、大泉北小学校、橋戸小学校)の児童が米作りの体験を通じて、学校間の交流や地域コミュニティの醸成に寄与することを目的として、田植え体験指導をはじめ、除草や水量調整といった水田の全般的な維持管理を行っている。

これまでも「橋戸の田んぼのことを子どもたちに少しでも知ってもらえれば」との思いで、種まきや田起こし、代かきを実施し、田植え体験に向けて準備を進めてきた。

【問合せ】

練馬区 都市農業課 農業振興係 ☎03-5984-1403